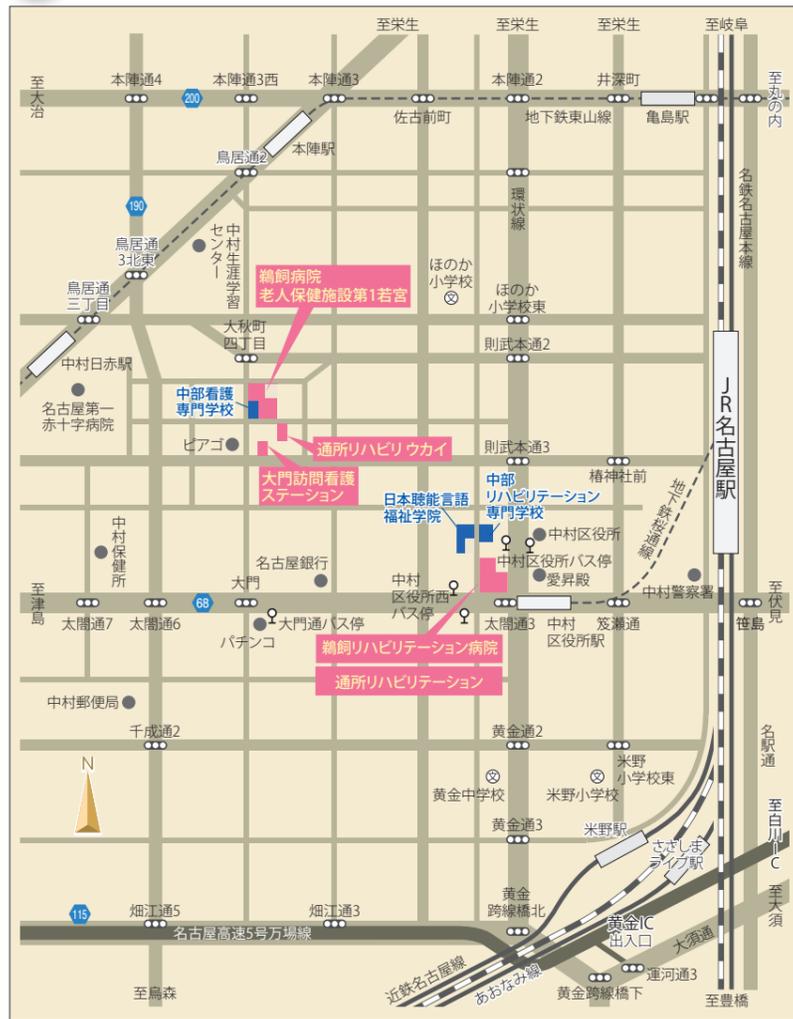


ご案内図



交通アクセスのご案内

- 地下鉄/桜通線「中村区役所」①出口より……………徒歩約1分
- 市バス・名鉄バス/「中村区役所」下車……………徒歩約1分
- JR名古屋駅太閤通口より……………車で約5分
- 名古屋高速道路「黄金」ICより北へ……………車で約5分



当院は、
医療機能評価
認定病院です。

医療法人 珪山会
鵜飼リハビリテーション病院

〒453-0811 名古屋市中村区太閤通4-1
TEL 052-461-3132 FAX 052-461-3231
Eメール mail@kzan.jp ホームページ <http://www.ukaireha.kzan.jp/>

時代のニーズに応える
珪山会グループ

鵜飼 病院
TEL 052-461-3131
FAX 052-461-3136
名古屋市中村区寿町30

老人保健施設 第1若宮
TEL 052-461-3175
FAX 052-461-3136
名古屋市中村区寿町30

鵜飼リハビリテーション病院
TEL 052-461-3132
FAX 052-461-3231
名古屋市中村区太閤通4-1

通所リハビリテーション
TEL 052-461-3237
FAX 052-461-3238
名古屋市中村区太閤通4-1

通所リハビリウカイ
TEL 052-461-9195
FAX 052-461-3107
名古屋市中村区寿町6-1

大門訪問看護ステーション
TEL 052-471-2533
FAX 052-485-9702
名古屋市中村区大門町30

中部リハビリテーション専門学校
TEL 052-461-1677
FAX 052-471-2333
名古屋市中村区若宮町2-2
<http://www.chureha.kzan.jp/>

中部看護専門学校
TEL 052-461-3133
FAX 052-483-0873
名古屋市中村区寿町29
<http://kango.kzan.jp/>

日本聴能言語福祉学院
TEL 052-482-8788
FAX 052-471-8703
名古屋市中村区若宮町2-14
<http://ncg.kzan.jp/>

鵜飼リハビリテーション病院
ハートフル情報誌
ReHappy!
Vol.63

鵜飼リハビリテーション病院 ハートフル情報誌

ReHappy!

リハッピー

Vol.63

発行人/鵜飼泰光
発行/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
名古屋市中村区太閤通4-1
<http://www.ukaireha.kzan.jp/>
編集/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
編集グループ
編集協力/プロジェクトリンク事務局
発行/平成30年4月1日

〈特集〉

理学療法の専門性を高め、
チーム医療の質向上に繋げる。



医療法人 珪山会
鵜飼リハビリテーション病院

理学療法の専門性を高め、 チーム医療の質向上に繋げる。

鶴飼リハビリテーション病院には、
リハビリテーションの専門職として、
多くの理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が、
在籍し、日々活動している。
ReHappy! では、今号から3回にわたり各職種を特集。
それぞれの専門性や取り組み、担う役割を追う。
第1弾である今回取り上げるのは〈理学療法士〉。
理学療法部の中橋亮平主任に、
理学療法士という職種について詳しく聞いた。



理学療法部主任
中橋亮平

日常生活を送るための 根幹となる「体づくり」。

「理学療法士とは何をする職種なのか」。理学療法部の中橋主任に単刀直入にこう尋ねたところ、「病気や怪我により、機能障害を抱えた患者さんに対し、体力や筋力といった体の基礎となる機能を向上させ、歩くことな



ど移動の能力を向上させる職種です」という答えが返ってきた。砕いて言えば、人間の活動の基本となる“体づくり”をする職種。そしてそのなかでも、患者さんができるだけ自由に移動できるようにすることが重要な役割なのだという。

「リハビリテーション医療では、多くの医療従事者がチームを組み、患者さんの機能障害の回復と生活を再構築するため、リハビリテーションを提供していきます。動作の基礎となる体力、筋力、そして自分で移動できる能力は、日常生活を送るための根幹を担う部分です。また、他の職種がスムーズにリハビリテーションを行う上でも、私たち理学療法士がきちんと基礎的な身体機能を向上させることが重要です」と中橋。

そのため、中橋が重要視するのは客観的なデータだという。「確実に効果を上げていくためには、感覚的に『歩行が良くなった』というだけではだめです。一定距離の歩行が何秒から何秒に縮まったのかなど、具体的に目に見える形で評価し、それを次のリハビリテーションに反映することが大切になります」。

一方、こうした日々のリハビリテーションを続けても、機能がなかなか戻らない患者さんもいる。「当院には脳卒中の患者さんが多く、そのなかには、どうしても一定

以上の回復が難しい患者さんもいらっしゃいます。こうした場合、回復が難しい部分をどう補うのかを考えることも大事です。それゆえ、安全に移動するために脚につける装具や適切な杖を選択することも、理学療法士の大切な役割になるのです」（中橋）。

退院後の生活を 知ることの重要性。

「理学療法士が行うリハビリテーションは、基本的に退院まで休むことはありません」と中橋は話す。基本的な身体機能を回復し、維持することが目的であるため、入院から退院に至るまで、すべての患者さんにほぼ毎日実施される。「ここまで機能を取り戻したから大丈夫」といったものではないのだ。そして、生活の再構築という目的を実現するには、患者さんが退院後スムーズに日常生活へと移っていけること、退院後も入院中に取り戻した身体機能や能力を維持し、さらなる回復へと繋げられることが必要となる。

そのために、今、中橋が重視するのは〈患者さんの生活を知ること〉だ。ステレオタイプに機能回復を考えるのではなく、退院後の生活を知り、そのイメージを持つこ



とで、一人ひとりの生活スタイル、生活環境に合ったリハビリテーションを提供することが大切だと考えている。

「病院内ですべて仕事をしていると、患者さんが普段、どのような状況で生活されているのかを詳しく知る機会はほとんどありません。また、若いスタッフのなかには、生活のイメージそのものが難しい者もいます。当院では、多職種による患者さんの家への退院前訪問を実施していますが、こうした機会を活かし、生活状況について自分の目で確かめ、話を聞く機会を持つことはとてもいい勉強になります。その結果、日々のリハビリテーションや



患者さんとの会話の中身も変わっていきます」と中橋は話す。

さらに、同院のスタッフは、回復期を担う鶴飼リハビリテーション病院から、生活期を担う法人内の施設への人事異動の機会も設けている。「生活期リハビリテーションの現場を経験することで、退院後の生活に対する理解をより深めてもらいます。やはり回復期しか知らない理学療法士は視野が狭くなりがちですから」（中橋）。

他のセラピストから見た 理学療法士の大きな存在感。

では、同じようにリハビリテーションを担う他職種の目に、理学療法士の存在はどのように映っているのだろうか。

作業療法部の田中実希主任（作業療法士）は、「生活全般の応用能力も、基礎身体能力がなければ成り立たない。その意味で理学療法士の存在はとても大きい」と話してくれた。「筋力や可動域、そしてすべてのベースとなる体力がなければ、作業療法を進めていくのは難しいですから、理学療法士



作業療法部主任 田中実希

との連携は欠かせません。典型的な例が入浴です。自分で入浴するためには、お風呂場で歩いて移動することが必要になります。その場合の歩行は直線的な動きだけではないですし、装具をつけていらっしゃる方は、装具を外す必要もあります。そのため、『歩ける』という情報ももらっていても、実際に浴室で実践してみると、難しいこともあります。こうした情報を理学療法士にフィードバックし、アドバイスをもらう、歩行訓練に反映してもらうなど、常に情報を共有し、課題を提示し合いながらリハビリテーションを進めています」。

言語聴覚部の小林瑞穂主任（言語聴覚士）も、田中主任と同様に理学療法士の存在の大きさを口にする。「特に違いが出るのが嚥下です。理学療法士に体の筋力や可動域などの基礎的な部分を担ってもらってからこそ、座って食べる、力を入れて噛むといった訓練が可能になります。言語聴覚士の訓練が可能かどうかの判断は、体力があるかないかによるところが大きい。そこで私たちの方から、『もう少し体力を上げられるように頑張ってもらいたい』といった要望を出すこともあります」。



言語聴覚部主任 小林瑞穂

個々の専門性とチーム力で患者さんをしっかりと支える。

回復期のリハビリテーションは、まず理学療法士が基礎身体能力を向上させた上で、他のリハビリテーションに移行していくわけではない。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などが、患者さんの状況に応じて役割を分担し、同時並行でリハビリテーションを展開していくところに難しさがある。

そこで重要になってくるのが、チームカンファレンスなどを通じた情報共有だ。「まずは入院時の多職種カンファレンスでチームの方針を決定します。そして設定し



た目標に向けて、多職種が専門性を発揮しながらアプローチしていく。チームが一体となってリハビリテーションを提供するには、チームの各専門職が、機能回復がどこまで進んでいるか、現在の課題は何なのか、といった情報を密に共有しあうことが大切です。当院では、定期的にチームカンファレンスを実施し、それぞれの立場から活発な意見交換を行っています」(中橋)。

最後に、理学療法部としての今後の目標を聞いた。「とにかく人を育てることです」と中橋。「院内の理学療法士の教育・管理を担う理学療法部の主任となり、患者さんに直接リハビリテーションを行うことは少なくなりました。ただ、人を育てることで、患者さんに貢献することはできます。理学療法士として確実な知識・技能・振る舞い・行動を身につけ、ロボットリハビリテーションなど、最新の知見を取り入れ、研究・発表まで行う。そんな専門集団を創っていきたくです。そして、専門性を高めた各職種がお互いを理解し、チームとして機能することで、患者さんにより良いリハビリテーションを提供できるよう進化を続けたいと思います」。



For the Best Rehabilitation

Topic 1

リハビリテーション支援ロボット「ウェルウォーク」を導入。

医療技術の発展とともに、リハビリテーションに用いられる機器も急速に進化を遂げている。VR（バーチャルリアリティ）やロボットなどの最新技術を応用した機器が次々と開発されており、鶴飼リハビリテーション病院の理学療法部においても、こうした最新機器の導入を積極的に進めている。



最近導入されたのが、リハビリ支援ロボット「ウェルウォーク WW-1000」だ。トヨタ自動車と藤田保健衛生大学が下肢麻痺のリハビリ支援を目的に共同開発したもので、患者さんに合わせた難易度の調整や、歩行状態のフィードバック機能など、運動学習理論に基づくさまざまな機能を備えている。通常の歩行訓練が困難な重症患者さんでも訓練ができるのが大きな特徴だ。「今までは訓練が難しかった患者さんの身体能力の向上に大いに役立つはず。また、ロボットが歩行を支援してくれるため、介助する理学療法士の負担軽減に繋がるメリットもあります」と中橋主任。今後は理学療法部が中心となって運用し、リハビリに役立つデータの収集にあたるほか、リハビリ支援ロボットの専門チームを立ち上げて活用を促していく計画だ。

「今までは訓練が難しかった患者さんの身体能力の向上に大いに役立つはず。また、ロボットが歩行を支援してくれるため、介助する理学療法士の負担軽減に繋がるメリットもあります」と中橋主任。今後は理学療法部が中心となって運用し、リハビリに役立つデータの収集にあたるほか、リハビリ支援ロボットの専門チームを立ち上げて活用を促していく計画だ。



Topic 2

一から手厚く指導する理学療法士教育。

鶴飼リハビリテーション病院の理学療法部には、現在45名の理学療法士が所属している。教育を担当する中橋主任は「人数が多いだけでなく、若い世代が大半を占めていますから、きちんと教育できるシステムや環境づくりが大切だと考えています」と話す。

若いスタッフを育成するため、年次別教育を展開している同院。中橋主任も1年次、2年次、3年次それぞれの教育目標を設定し、その目標の達成度合いを管理することで、3年間で一人前の理学療法士になれるよう指導にあたっている。「学校では直接患者さんに触れる機会はほとんどありません。教科書に載っている知識だけでも臨床現場では通用しないので、本当に一から手取り足取り教えていくのが新人教育の基本です」と中橋主任。リーダークラスとなる入職6～7年目の中堅スタッフ向けには、コーチングなどの研修を実施するほ

か、施設間を異動することで生活期の知識を習得する機会を提供。そして入職10年を過ぎる頃には管理職へとステップアップしていく。

「リハビリテーションの質を高めるには、エビデンスをきちんと学ぶことが基本です。教育を担当して2年ほどになりますが、後進をきちんと指導し、理学療法部全体の質をさらに高めることで、患者さんに還元していきたいと考えています」(中橋)。



珪山会
グループからの
お知らせ

Support Party!

鵜飼病院

地域に密着した病院として、
患者さんやご家族を支えます。

当院は、地域に密着した病院として近隣の病院や診療所と連携を取り、患者さんにとってより快適な入院診療・外来診療を提供できるよう努めています。急に体調が悪くなられた方や、救急車の受け入れにも対応しており、整形外科手術も行っています。

また、患者さん、ご家族の「自宅で生活を」という気持ちにお応えできるよう、リハビリテーションにも力を入れています。法人内外の居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等の介護保険サービス事業所と協力し、患者さんのご自宅での生活を支えます。



施設概要

リハビリテーションを中心に医療・福祉活動を展開しています。最先端設備と人に優しい環境を整え、患者さん一人ひとりを支えます。

診療科目：内科・神経内科・外科・消化器外科・整形外科・リハビリテーション科・放射線科

病床数：120床（一般病床30、地域包括ケア病床30、療養型病床60）

外来受付時間

月～金曜日 9:00～12:00 / 15:30～18:00

土曜日 9:00～12:00

休診日 日・祝

※在宅医療サービス、介護保険サービスも行っています。

鵜飼リハビリテーション病院

■通所リハビリテーション（1～2時間）

利用者さんの状態に合わせて、
専門スタッフがリハビリや運動を実施します。



介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）で、1時間30分の短時間型通所リハビリを提供しています。病院を退院した後、安心してご自宅での生活が送れるよう、専門スタッフ（理学療法士）が利用者さんの状態やニーズに合わせて、個別リハビリ（20～40分）や機械を使っでの運動（40～50分）を実施します。

また、平成24年から、要介護者の方に限りお宅への訪問を始めました。実際の生活現場で情報収集を行うことで、解決が必要な課題を明確にし、より充実したリハビリを提供できるよう、スタッフ一丸となりサポートしています。

施設概要

利用者さんの状態に合わせて、20～40分の個別訓練と1時間程度の自主訓練で体力や基本動作能力の維持・向上をはかります。

対象：要介護・要支援認定の方
ご利用日：月・木・火・金・水・土（祝祭日を含む）

ご利用時間：午前 9:00～10:30 / 10:30～12:00
午後 13:00～14:30 / 14:30～16:00

サービス内容

- 筋力増強訓練や関節運動など
- 食事・排泄・更衣・入浴など日常生活動作
- 住宅環境の整備
- ホームプログラムの指導 など

※食事・入浴・送迎はありません。

通所リハビリ ウカイ

■通所リハビリテーション（1～2時間）・（3～4時間）

病院でのリハビリと
同等のリハビリの提供に努めています。

介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）です。利用者さんの状態やニーズに合わせ、医師やリハビリ専門スタッフがサービスを提供します。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を配置し、病院でのリハビリ（医療保険）が終了となった場合でも同等のリハビリを提供できるよう努めています。

日常生活での動作獲得やコミュニケーション能力の向上等をめざし、身体機能や筋力の維持・向上がはかれるようプログラムを立案。個別リハビリ、機器での筋力強化やマッサージ、物理療法の低周波やホットパック等を行います。



施設概要

体力や基本動作能力の向上をはかりたい方を対象に、20～40分の個別訓練と1～3時間程度の自主訓練を行います。

対象：要介護・要支援認定の方

ご利用日：月～金曜日

（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：午前 9:00～12:30

午後 13:30～17:00

サービス内容

○3つのコースと利用者に応じた個別リハビリテーション

○健康状態の確認（メディカルチェック）など

※食事・入浴・送迎はありません。

老人保健施設 第1若宮

■通所リハビリテーション（6～8時間）

利用者さんの笑顔が
職員の励みです。



第1若宮では、年間を通して、節分や夏祭りなど季節に合わせた行事のほか、お花見や遠足などの外出行事を実施しています。

行事では、機能訓練や認知症の進行予防の援助も取り入れながら、利用者さんが、ご自分の能力に合わせて楽しんで参加していただけるよう配慮しています。

利用者さんが行事で見せてくださる笑

顔が、職員の励みになっています。これからも、一人でも多くの利用者さんに、楽しんで参加していただけるような行事を企画していきます。

施設概要

介護を必要とする方を対象に、心身機能の維持・向上のためのリハビリを提供するとともに、入浴・食事・送迎サービス等も行います。

対象：中村区にお住まいの要介護認定の方
ご利用日：月～土曜日

（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：9:50～16:10

サービス内容

○理学療法士、作業療法士によるリハビリテーション

○日常生活の援助

（健康状態の確認、入浴・食事の介助等）

○在宅生活における各種相談

大門訪問看護ステーション

短期間の利用も可能。
退院後の不安を取り除きます。

「退院後すぐに体調が悪くならないだろうか」「自宅でどんな運動をすればいいのだろうか」「トイレやお風呂の介助がうまくできるだろうか」など、退院後の不安はどなたもお持ちだと思います。

当ステーションでは、退院前のリハビリ見学等を通して入院スタッフからの情報収集を実施しており、退院後、看護師やリハビリスタッフ（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）が週1～2回程度訪問して、ご本人の状態や環境に合わせた指導・援助をしています。退院後から生活が落ち着くまでの短期間利用も可能です。



施設概要

看護師、リハビリスタッフがご自宅に訪問し、利用者さんやご家族が安全・安心に暮らせるよう、在宅生活を支援します。

営業日時：月～金曜日 9:00～18:00

（祝祭日、年末年始を除く）

サービス提供地域：中村区・西区・中川区

サービス内容

○健康状態・病状観察

○日常生活の支援

○医療処置・カテーテル管理支援

○在宅リハビリテーション

○看護・介護・住宅改修・福祉用具の助言、相談 など

※ご利用にあたっては医師の指示書が必要です。ステーションにお問い合わせいただくか、ケアマネージャーにご相談ください。
※看護師の24時間対応。